

9の森のおくりもの

2010年 9月号

メヒシバ (イネ科)



イラスト：井上 伸子 (青葉区)

もう長月、8月は猛暑で事務所内は30℃を越し、湿度も80%を越す日が幾日も続きました。うだるような暑さの中、お山を目指す常連さんとの挨拶で出てくる言葉はお互いに「今日も暑いね、気をつけて」でした。

ガイドウォークでも午前中に参加して午後からは帰る方が多かったように見受けられました。

これからは暑さも和らぎ、実りの秋になります。暑い夏を耐えたお山の動物達が困らない実りがあればと願っています。

(武智)

シーソーで花粉をつけるよ！ キバナアキギリ

観察の森では、セミの鳴き声にまざりコオロギやツユムシなどの秋に鳴く虫が鳴きはじめ、キツリフネやシラヤマギクが咲き始めました。厳しい残暑が続いていますが、季節は秋に向かっていくようです。今回は秋の観察の森を黄色で彩る花「キバナアキギリ」をご紹介します。

【キバナアキギリ (シソ科アキギリ属)】

花期：8～10月 / 分布：本州、四国、九州

高さ20～40cm
の多年草。葉は
対生。



◆和名の『黄花秋桐』は、秋に桐に似た黄色の花をつけることや、葉の形が桐に似ていることからついたと言われています。

【花の切断図】

おしべが下にさがり、ハチの背中にくっつきます。



ここが支点になる。

マルハナバチは、頭でここを押します。

キバナアキギリは、山地の木陰に生える花です。この花は虫に花粉を運んでもらう虫媒花なのですが、おしべを他の植物ではあまりみられない形に変えて、虫に花粉を運んでもらう戦略を行っています。

では、その戦略について紹介したいと思います。まずおしべ4個のうち2個を退化させ、赤いごく小さいものにしました。この退化したおしべ（花粉はありません）は花の入口にあり、長いおしべとつながっています。虫たちが蜜を求めて花にやってきました。虫が奥に入ろうとすると退化した赤いおしべがあり、虫たちはこれを頭で押します。すると、上にある長いおしべが下りてきてマルハナバチなどのキバナアキギリを訪れた虫達の背中にくっつくのです。片方を押しと片方が下がるシーソーのような仕組みで、確実に花粉をつける、おどろきの戦略を行っているのです。

鉛筆などでそっと押しと、おしべが下がる様子を観察することができます。観察の森では、いざないの道やいこいの道などで見られますので、ぜひ観察してみてください。

【文・イラスト：咲間】



【もんだい】 次のうち、実在しないチョウはどれでしょう？



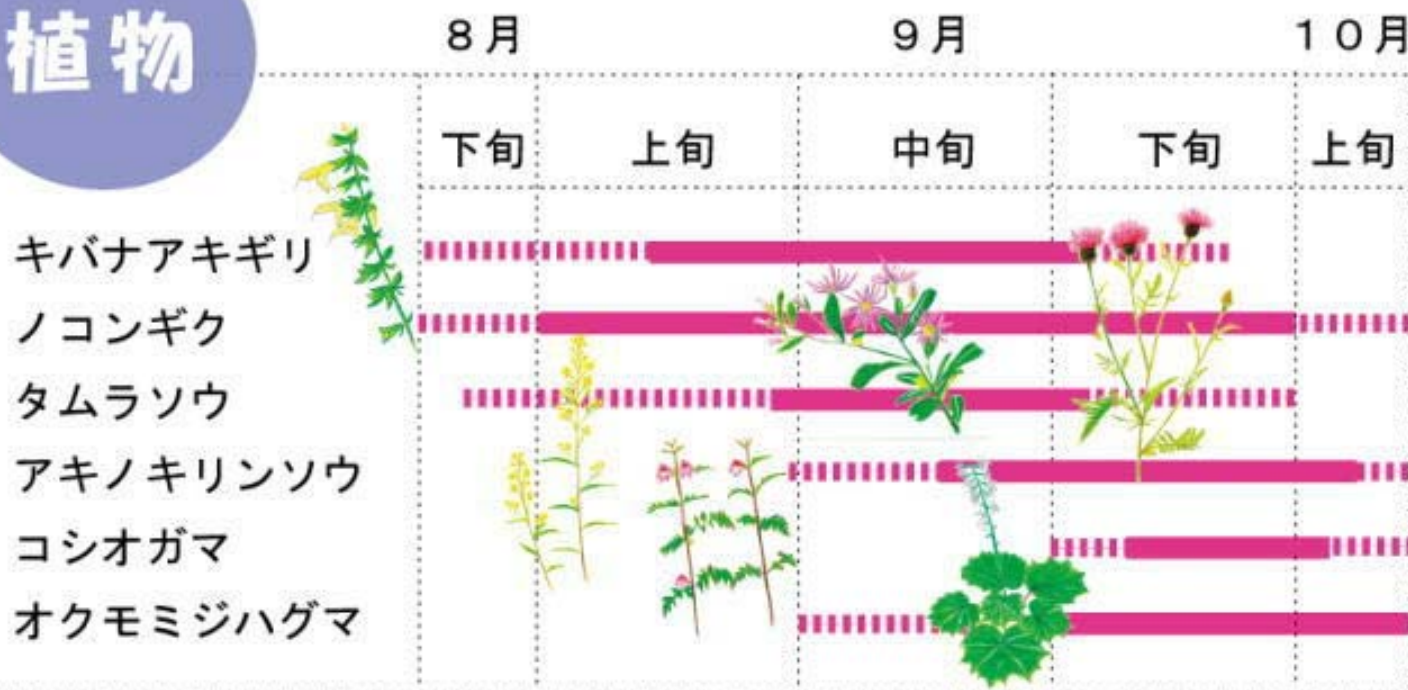
- (A) コムラサキ
- (B) チュウムラサキ
- (C) オオムラサキ

【答えは、5ページ ㊦】

9月の生物ごよみ (過去のデータから予想)

観察の森ではどんな生き物が、いつごろ見られるの？

植物

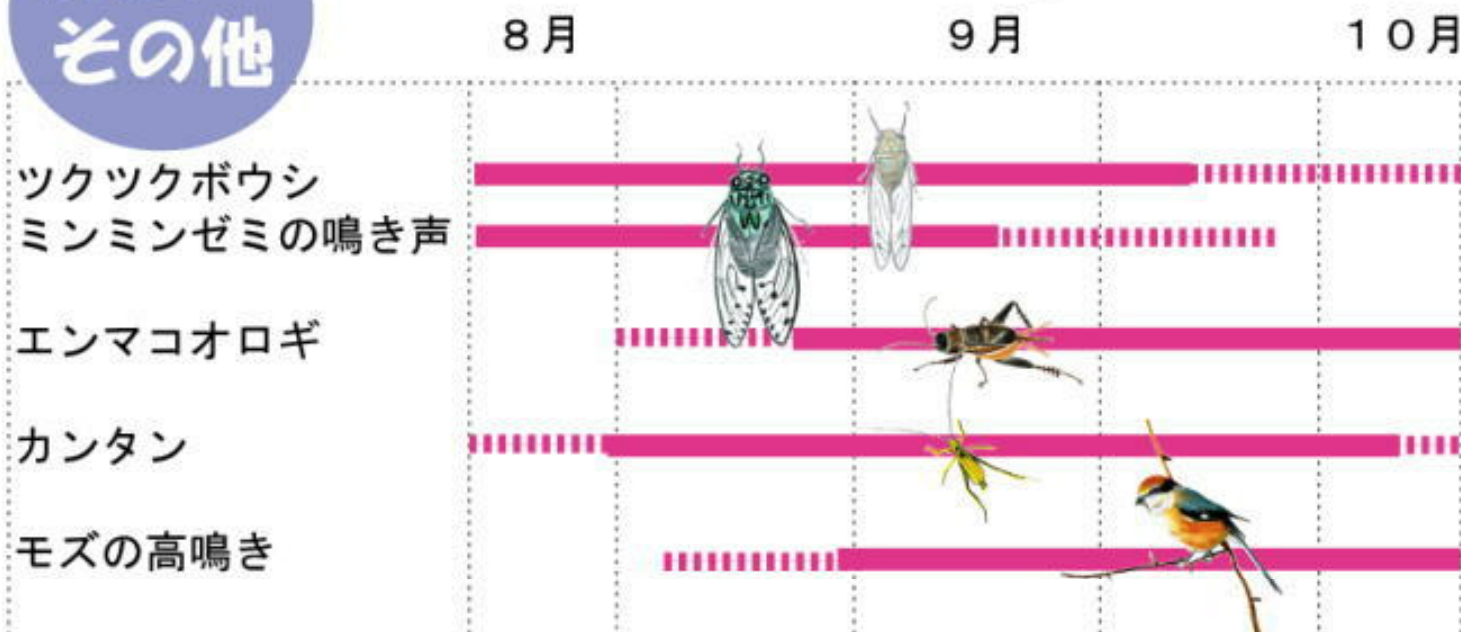


今年の夏は本当に暑かった！！仙台でも30度を越える日が幾日も続き、人と顔を合わせるたび『暑いね』『暑いですね』が合言葉のように飛び交いました。お盆を過ぎても厳しい残暑が続き秋風が吹くのはいつのことやら・・・。

秋といえば鳴く虫の季節。『秋の鳴く虫』と称してツユムシやコオロギの仲間など昨年は7月の後半から10月末にかけて最高で16種類ほど展示しましたが今年はまだ虫が捕れていません。そこで展示できそうな虫がいましたらセンター職員までご一報を！皆様のご協力お願い致します。

【文・イラスト：齋】

昆虫・その他

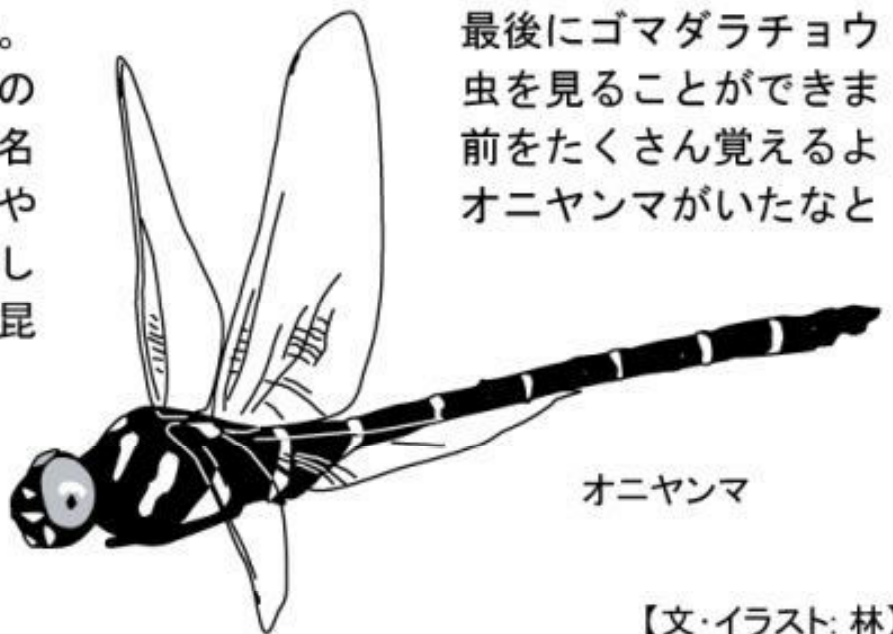


みんなで自然観察

イベント報告
虫のいどころ

8月21日。猛暑も一段落という感じで、暑いながらも木陰やそよ風が気持ち良く感じる中、斎藤雄二さん（宮城昆虫地理研究会幹事）による観察会が行われました。センター前で挨拶が終わると、まず足元を歩いていたアリからスタート。「これは何アリかな〜？」という問いに、「ムネアカオオアリ」と子どもが答えました。いきなり大人もビックリです。耳を澄ますと、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、エゾゼミ、そしてアブラゼミの音が聞こえていました。ヒグラシもいましたが、もうあまり鳴かなくなってきたようです。ゴミムシ、キマワリ、シデムシ、ハネカクシなどの歩行性昆虫を観察しながら歩いていたとき、臭い虫や、刺す虫についての注意がありました。ある家族参加の父親が、「ほらちゃんとよく聞いて。注意するんだよ」と子どもに言うと、隣から「身を持って体験した方がいいのよ！」と母親の声。何度か聞いたことのあるようなこの会話。これは、父性と母性の違いでしょうか？一般的な傾向がありそうで面白いです。蝶の野原へ移動する途中、リスが樹上を駆けているのに出会い、斎藤さんが「今日はラッキーデー」と言いました。みんな、リスを見るところとうれしくなりますよね。コナラの幹から樹液が出ているところ（昆虫酒場）に、たくさん虫が集まっていました。斎藤さんが「ちょっと待って！今から解説するから」と言って解説を始めましたが、子どもたちはもう採りたくてうずうずしていました。手と網が、虫にじわじわと迫ってきて、斎藤さんも虫を守りながらの解説が大変そうでした。センター前に帰ってくると、オニヤンマが飛んでいて、子どもたちが網を持って追いかけました。けれどもなかなか採れません。斎藤さんは、「あれは待っていれば来ます」と言って、一步も歩きません。そして予言した通り、ブーメランのように返って来たところを一発で捕獲。流石、虫採りのプロです。最後にゴマダラチョウ虫を見ることができま前をたくさん覚えるよオニヤンマがいたなど

も現れて、全部で40種以上のした。斎藤さん曰く、「虫の名り、暑いときにはカブトムシやか、感覚的なものを覚えてほしい」、だそうです。9月にも昆虫観察会が予定されていますが、季節は秋、今より涼しくなって、また違った虫たちに会えるのが、とても楽しみです。



オニヤンマ

森のこえ



『太白山から得たもの』

太白山 S.T

日課のように太白山に登るようになって数年になる。同じ時間帯に頂上で出会う人達がいる。

花を良く知っていて教えてくれる人がいる。きのこや山菜に詳しい人がいる。カモシカの写真を撮って歩く人がいる。他の山の素晴らしさを言う人がいる。汗を拭きながらの20～30分の間にいろいろなおしゃべりをする。しだいにお互いのその日の体調の良し悪しが分かる程に親しくなってくる。そして友情らしきものも生まれてくる。

私は三匹の小型犬と暮らしている。

ある日、そのうちの一匹が突然吐いた。病院へ連れて行くと、即入院。一日がかりの各種の検査の結果、翌日夜の緊急手術となった。ただの夏バテくらいに考えていた私は「かなりリスクの高い手術になります。手術中に万が一のこともおこり得ます。」との医者言葉に、もしこのまま死なれたらどうしよう、病気に気づかなかった私の責任だ、飼い主失格だ、とオロオロメソメソするばかり。

そんな時にも山友達はありがたい。眠られぬままの翌朝の山頂で、私の泣き言をじっくり聞いてくれ励ましてくれた。わざわざ車を回して病院まで送ってくれた。数日間の私の様子を観ていてくれた。

犬が元気になるにつれ、私も元気になってくる。その元気になってきたうちの何分の一かは太白山仲間の友情によることを、私はしみじみ感じとっている。

一日のうち数十分を共にするだけの友達の間にも、かけがえのない大切なものは生まれるのだと太白山は教えてくれた。

クイズのこたえ

⑧ チュウムラサキ

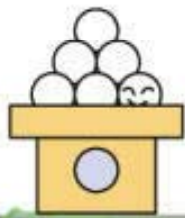


コムラサキ



オオムラサキ

オオムラサキもコムラサキもタテハチョウの仲間で、観察の森にも生息しています。オオムラサキは日本の国蝶です。



9月の催し

「秋の昆虫観察」

雑木林の昆虫たちを観察します。

9月18日(土)

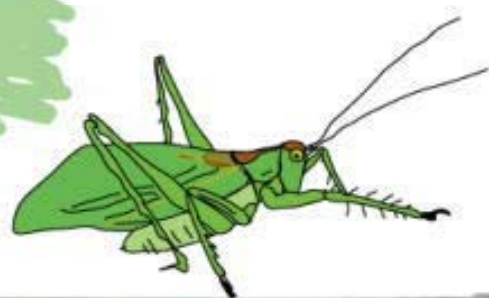
10:00~11:30

【講師】中瀬潤氏
(自然・昆虫写真家)

【持ち物】観察用具、雨具など

【定員】20名

申し込み⇒ 7日9時から電話にて



10月の催し

「太白山の秋を感じて」

10月23日(土)

10:00~15:00

【講師】井上薫氏
(宮城植物の会幹事)

申し込み⇒ 詳しくは、森のおくりもの
10月号か、市政だよりにて



「ガイドウォーク」

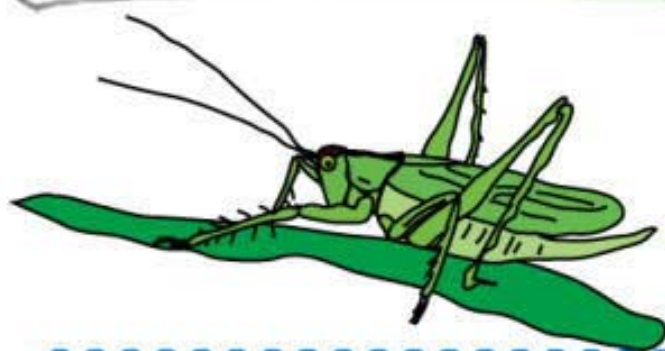
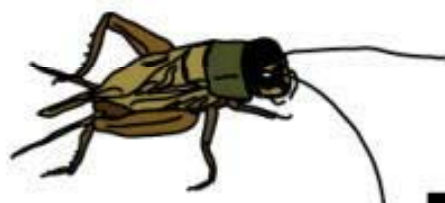
9月のテーマは『秋の草花と虫たち』です

5日, 12日, 19日, 26日 (毎週日曜日)

午前の部 → 10:00~11:30

午後の部 → 13:30~15:00

★申し込み不要です
自然観察センター前にお集まりください。



休館日

6日、13日、21日、27日、

♪森へおいでください♪



宮城交通バス

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅前から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



車

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



定期購読のお知らせ

住所・氏名・電話番号と、何月号から希望かを明記のうえ、80円切手12枚を同封して、自然観察センターまでお申し込みください。

2010年9月号(毎月1回5日発行)

発行：(財)仙台市公園緑地協会

編集：仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133